維新は野党でも「ゆ党」でもない

写真は東京新聞 17 日朝刊「こちら特報部」。関心あるテーマなので抜粋して紹介。先の衆院選で躍進した日本維新の会と、野党共闘の枠組みから外れ、維新との連携を強化する国民民主党。政権与党との明確な対決姿勢を見せず、是々非々の立場を取るという。野党でも与党でもないそのありようは「やゆよ」の真中、「ゆ党」だが、それは過去にも多数出現し、多くは自民党か野党第一党に収斂していった経緯がある。維新・国民の「ゆ党共闘」の行方はいかに。

野党ではなく　維新＋国民　与党でもない

ゆ党

第三極なの？

日本維新の会　第49回衆議院

維新

改憲強調 本質は「自民の党外派閥」

関東では低調 存在感増へ躍起

ともに議席を伸ばした維新と国民は連携して「第三極」としての存在感を高めようと躍起だ。連携には、来夏の参院選を見据え、岸田政権にも野党共闘にも批判的な有権者を取り込もうとの思惑が透けて見える。特に憲法論議では、改憲論議を加速することで早々に一致。9 日には、衆参両院の憲法審査会を毎週開くことを求めることを確認した。維新の吉村洋文副代表は「（自民党は）『改憲は党是』と言いながら一部の保守層のガス抜きでやっている。本気で改憲するなら、われわれも本気で付き合う」と挑発する。

「有権者は『今の生活を何とかしてよ』という気持ちで、大阪で実績のある維新の候補者を国政に送り出した人が多いと思う。憲法論議をするなとは言わないが順番が違う。勇み足だ」維新の動きにこう注文をつけるのは、大阪市在住で、大阪の政治状況に詳しいフリージャーナリストの吉富有治氏だ。吉富氏は、維新が大阪で圧勝したのは、公務員の人員削減など役所のスリム化を進めたほか、大阪市の小中学校の給食費無償化など、有権者に響く政策を実現してきた実績が評価されたからだと分析する。

しかし、国政の場では、維新が森友・加計学園問題や、安倍晋三元首相の後援会員が多数招かれた「桜を見る会」の私物化疑惑など、政権批判に直結する問題で追及が手ぬるいとして、吉富氏は維新の本質をこう喝破する。「維新は『自民党の党外派閥』でしかない。野党でも『ゆ党』でもない」

吉富氏は維新が改憲論議を挑発することを「勇み足」というが、これこそ維新の本音ではないか。維新・国民の「改憲共闘」により、自民党が実現をめざす 9 条などの憲法改悪が懸念される。もう一つ、大阪での維新圧勝は「有権者に響く政策を実施してきた実績が評価されたからだ」とするが、こんな評価でいいのか。公務員削減はコロナ禍の犠牲者を拡大させたのではないか。維新「改革」の中身、後遺症について検証したい。

（2021 年 11 月 23 日）